



学校教育目標

1	教育方針・目標の理解	2	意欲的な学校生活	3	教師の連携協力
学校は、児童や保護者に学校の教育方針や教育目標を分かりやすく示していると思いますか。		子供たちは、充実した学校生活を送っていると思いますか。		全職員で、連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。	
考察 【1】 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答が、教職員89%、児童96%、保護者93%、学校評議員100%で、児童は昨年度と比べ4ポイント上がった。コロナ禍の中、実施していない取組もあったが、PTA総会での校長講話、学校便り、学校ホームページによる啓発の他、学校教育目標をもとに設定した学級目標の振り返りを児童に随時行わせたり、その様子を学級便りに掲載したり、学級懇談会で話題にした。また、地域の会議にも足を運び、学校を核とし、地域と連携・協働を図ってきたい。 【2】 肯定的な回答が、教職員100%、児童97%、保護者96%、学校評議員100%と高く、その中でも児童の70%が「そう思う」と回答しているが、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している児童の気持ちがよりよい方向に変容していくよう、今後とも「分かる・できる」喜びを味わわせる指導の工夫や「認め・誉め・励まし・伸ばす」指導の継続を図ってきたい。 【3】 肯定的な回答率が、教職員100%、保護者90%、学校評議員100%と高かった。今後も学校教育目標の具現化や様々な課題に対し、「チーム学校」として組織的に取り組んでいきたい。					

教科指導について

4	授業づくりの工夫	5	意欲的な学習態度	考察 【4】 肯定的な回答が、教職員94%、児童95%、保護者95%、学校評議員100%と高かった。特に「そう思う」と回答した児童の割合は、57%を占め昨年度より4ポイント上がった。一年間、授業改善をテーマに校内研修を進めてきたが、継続的に学力の学力向上検証改善サイクルに則り、分かりやすく、質の高い授業づくりに努めていく。 【5】 肯定的な回答が、教職員95%、児童94%、保護者87%、学校評議員100%であった。特に「そう思う」と回答した児童の割合は、56%を占め、昨年度より4ポイント増えている。教師の授業改善に対する意識の向上と取組が少しずつ浸透してきている。今後も「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」の育成を目指し、学力向上の取組を推進していく。
学校は、わかる授業、丁寧な授業づくりに努めていると思いますか。		子供たちは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。		

道徳教育 心の教育について

6	道徳、心の教育の充実	7	あいさつ、礼儀の励行	考察 【6】 肯定的な回答が、教職員95%、児童90%、保護者92%、学校評議員100%であった。教職員は昨年度より6ポイント上がっていた。特別の教科「道徳」の指導をより一層充実させるとともに、家庭（日常的な会話等）・地域（体験的活動の充実等）との連携を深めながら、豊かな心の育成に向けた取組を推進していきたい。 【7】 肯定的な回答が、教職員74%、児童92%、保護者88%、学校評議員80%と他の項目と比べると認識や感し方に開きが見られる。教職員は、ハルスビリツにある「自分から進んで」「話す人の顔を見て」のレベルを児童に求めているためだと思われる。挨拶や礼儀作法の大切さを発達段階に応じて伝え、自然に挨拶ができる児童の育成に努めていく。
学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にする心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。		子供たちは、挨拶がきちんとできていると思いますか。		

人権教育について

8	一人一人の児童の尊重	9	友達への思いやり
学校は、一人一人の子供を大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。		子供たちは、友達と仲良くしていると思いますか。	
考察 【8】 肯定的な回答が、教職員100%、児童96%、保護者88%、学校評議員100%であった。「そう思う」と回答した児童は、昨年度同様75%を占めたが、「どちらかといえばそう思わない」(3%)、「そう思わない」(1%)と回答した児童の存在を真摯に受け止め、全職員で児童理解を深めながら、一人一人に応じた丁寧な指導を行ってきたい。児童や保護者の相談体制の推進や関係機関との連携もさらに図ってきたい。 【9】 肯定的な回答が、教職員95%、児童98%、保護者98%、学校評議員100%といずれも高かったが、他の質問項目同様、否定的な回答に意識を傾け、より一層、障がいやジェンダーフリー等、人権同和教育の推進を図り、思いやりや協調性、自己肯定感、自己有用感等を育成してきたい。また、みんなが生活しやすい環境の推進を図りたい。			

学校行事について

10	学校行事等の工夫
学校は、学校行事（運動会など）が工夫されていると思いますか。	
考察 【10】 肯定的な回答が、教職員100%、児童95%、保護者95%、学校評議員100%と昨年度とほぼ同様高かったが、教職員と保護者の「そう思う」の割合が下がっていた。また、教職員や児童・保護者の回答に否定的な数値が見られることから、今後、行事の精選や統合、廃止等を図る中で、本校の魅力（児童の頑張りを表出させる場面の提示など）を発信していきたい。	

生徒指導 教育相談について

<p>11 児童理解</p>	<p>12 規範意識</p>	<p>13 いじめや問題への対応</p>
<p>学校は、子どものよさを見つけ、子どものことを理解しようとしていますか。</p>	<p>子供たちは、規則やマナーを守っていると思いますか。</p>	<p>学校は、いじめや問題があったとき、すぐに対応していると思いますか。</p>
<p>考察 【11】肯定的な回答が、教職員100%、児童97%、保護者91%、学校評議員100%と高かったが、否定的な回答が児童に3%、保護者に9%あったことから、より一層児童理解に努め、児童のよさを発見し、「認め・ほめ・励まし・伸ばす」指導を全職員で共通実践していきたい。 【12】肯定的な回答が、教職員95%、児童97%、保護者9%、学校評議員100%と高かった。数値は高いが、規範意識の高揚やマナーの低下が見られている。「廊下を走らない」「スリッパを並べる」行いは、周りの人や次の人のことを考える美しい行いであることを、粘り強く道徳の学習等でも扱いながら指導を行ってきたい。 【13】肯定的な回答が、教職員100%、児童97%、保護者90%、学校評議員100%と高かったが、保護者の「そう思う」の割合は昨年より3ポイント増えたものの他より低い結果となった。いじめの未然防止や早期発見（各アンケート調査や日常的な児童観察）、早期対応（児童との個人面談や教育相談の実施）、チーム対応（関係機関等と連携）などを今後とも推進・徹底していく。また、保護者との相談体制の整備も強化していきたい。</p>		

健康教育 安全について

<p>14 安全と事故防止</p>	<p>15 体力向上</p>	<p>考察</p>
<p>学校は、子供の安全と事故防止に努めていると思いますか。</p>	<p>子供たちは、すすんでスポーツなどを行っていると思いますか。</p>	<p>【14】全体的に肯定的な回答が多かったが、児童に5%及び保護者に4%が事故防止に努めていないと回答があったことを重要視し、児童が安全に対して主体的に取り組み態度を育成し自らの安全は自ら守る力を身に付けさせていくとともに、保護者や地域の方々と連携した見守り活動等も促進したい。</p>
		<p>【15】児童の18%、保護者の24%が否定的な回答であり、他の質問項目と比べると気になる数値となっている。コロナ禍にあり難しい状況にあるが、学校では新しい生活様式の中でも児童が夢中になって取り組む体育学習の充実や外遊びの奨励、始業前のランニング、児童会主催の各種スポーツ大会等を通じた体力向上を図ってきたい。</p>

学校環境について

<p>16 環境の整理・美化</p>	<p>17 施設・設備の安全管理</p>	<p>考察</p>
<p>学校は、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。</p>	<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>	<p>【16】肯定的な回答が、教職員100%、児童95%、保護者100%、学校評議員100%と大変高かった。児童が主体的に取り組み姿も多く見られるようになってきた。花壇の整備、校内掲示物の整理等もよくなってきた。今後も学校美化に学校総体で取り組んでいきたい。</p>
		<p>【17】肯定的な回答が、教職員95%、児童98%、保護者99%、学校評議員100%と大変高かった。今後も毎月全職員で実施している校内安全点検の徹底や日常的な危険箇所の確認（ヒヤリ・ハット報告）等に努めたい。また、「前月末（未然防止）」の大切さを職員全員で共通理解を図ってきたい。</p>

情報の公開・発信について

<p>18 学校の予定等がわかる情報発信</p>	<p>19 教育活動への参加</p>
<p>学校の情報は、文書（学校便り等）やホームページ等で、十分に発信されていると思いますか。</p>	<p>学校が公開している教育活動（行事等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。（分かる範囲で記入ください）</p>
<p>考察 【18】肯定的な回答が、教職員100%、保護者90%、学校評議員100%であった。1月下旬に学校ホームページの改定を行った。ホームページでも行事予定や児童の様子等を随時掲載したり、各種便り（学校・学級・保健・給食など）で様々な情報を発信したりしていきたい。 【19】肯定的な回答が、教職員79%、保護者90%、学校評議員100%であった。教職員の肯定的な回答の割合は、7ポイント下がっていた。コロナ禍にあり、十分な対応ができていない状況にあるが、今後、コロナウイルス感染症への対応が変化していくと思われるので、PTA本部役員と連携し、児童の活動を中心に考えるとともに、多くの方のニーズに対応した行事等を企画・運営していきたい。</p>	

家庭・地域の連携について

<p>20 家庭や地域との連携協力</p>
<p>学校は、家庭や地域と連携協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>考察 【20】肯定的な回答が、教職員95%、保護者85%、学校評議員100%とほぼ同様の回答の割合であった。それぞれが「コロナ禍だからこそ」といった思いがある中、様々な方々のご理解とご協力のもと、できうる限りの取組を行ってきた。今後も教職員一人一人が課題意識を持って、「地域（家庭）とともにある学校づくり」に取り組んでいきたい。</p>

業務改善・働き方改革

<p>21 業務改善・働き方改革</p>
<p>学校は、業務改善・働き方改革に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>考察 【21】肯定的な回答は80%であった。授業の準備と評価、校務分掌の在り方が課題解決の大きな鍵となる。本年度は、保護者の理解をもとに通知表の発行を2回とする取組を実施し、子供と向き合う時間が確保できた。その結果、児童の落ち着いた学校生活が見られている。今後も仕事量、負担軽減について、教職員と協力・改善しながら業務を進めていく。働きやすい環境づくりを目指して、風通しのよい職場づくりを目指す。</p>

来年度の具体的な取組について（今年度肯定的な回答が多かった事項を中心に）

- 【教育方針・目標の理解】 学校教育目標の周知徹底とその具現化に向けた家庭や地域との連携・協働
- 【道徳教育、心の教育の充実】 全教育活動での「思いやり、ありがとう、おかげさま」等の心の育成及び家庭との連携
- 【挨拶・礼儀の励行】 あいさつ・聞き方・そろえ方（八代スピリッツ）の再度の徹底
- 【規範意識】 実社会においても通用する規範意識の育成
- 【いじめや問題行動の対応】 けんかやふざけ合いであっても背景をしっかりと見極め、組織的に対応する職員集団の育成
- 【体力向上】 誰もが「面白そう」「できそう」と思える学習の展開や魅力ある遊び、運動の奨励